

## 令和5年度 事業報告（概要）

### 1 総括

#### <組織運営・内部管理>

- 法人全体として、「質の高いサービスの提供」「人材育成と働きがいのある職場づくり」「地域に貢献する施設づくり」「経営の基盤強化・健全化」を目標に掲げ、経営に取り組んだ。
- 令和元年9月に策定した「愛媛県社会福祉事業団中期経営計画」に基づき、法人全体が連携して重度障がい者支援体制の構築、優秀な人材の確保等に取り組むことにより、計画の確実な執行に努めた。併せて、令和5年度末で計画期間が終了するため、現計画の評価・進捗等を踏まえ、経営目標を達成するために取り組むべき課題のうち優先順位の高いものを取捨選択し、第2期中期経営計画を策定した。
- 社会福祉充実計画に基づき、以下の取組みを実施した。
  - ・ 職員処遇の改善
  - ・ 障がい者スポーツ支援事業の実施
  - ・ 障がい者芸術文化支援活動の実施
  - ・ 視覚障がい生活訓練等指導者養成事業の実施
- 近年の物価高騰の状況や社会全体の賃上げの動き等を踏まえ、日頃の職員の精励努力に報い、優秀な職員を安定的に確保することを目的に、非正規職員を含む全職員を対象とした給与改善を実施した。
- 全国社会福祉協議会が開発した「福祉職員キャリアパス対応生涯研修」をベースとした階層別研修や施設長・管理職セミナーなどを実施し、職員の資質向上に取り組んだ。
- 県の委託を受け、「愛媛県障がい者虐待防止・権利擁護セミナー」を開催し、県内の障がい福祉人材のスキルアップ、専門性の向上を支援した。

#### <施設運営・事業部門>

- 各施設・事業所の運営にあたっては、新型コロナウイルス感染症が完全収束とならない中、利用者の安心・安全に配慮しつつ、職員の創意工夫により活発な行事等の実施に取り組んだ。一方、物価高騰等が長期化する中、食材費・水道光熱費の高騰等の影響を受けたが、県の応援金等も活用し、収入の確保及び効率的な事業執行に努め、法人全体として健全かつ安定した経営を維持した。
- 新型コロナウイルス感染症の法的位置づけが5類相当となつて以降も、利用者や職員の感染が継続して発生し、一時的に集団感染に至った施設が複数あったものの、いずれも職員が一丸となつて的確な措置を講じ、速やかに事態を収束させることができた。
- 直営施設においては、地域や関係機関との連携の下、利用者一人ひとりの障がい特性及びニーズに即した生活支援や訓練など、質の高いサービスの提供に努めるとともに、就労・自立に向けたきめ細やかな相談・支援に取り組んだ。
- 直営3施設で実施している就労継続B型事業については、「しげのぶ清愛園」では、機械の導入により農作業等の効率を図ったほか、農産物等の販売の工夫等により売り上げを伸ばし、「ぱれっと道後」では、特にクリーニング科において新規の受注先獲得や近隣住民を対象とした利用促進キャンペーンの実施による新規顧客の確保に努め、「いだい清風園」では、ぶどう果汁を搾汁するための自動搾汁機を整備し、新商品の開発及び販路拡大に取り組むなど、3施設とも工賃の確保・向上に繋げることができた。

- 指定管理施設においては、次期指定管理期間（令和6～10年度）の指定も受け、公の施設の設置目的を踏まえ、安心・安全・快適な施設管理に努めるとともに、地域に親しまれる施設を目指し、多様化するニーズに柔軟に対応するなどサービス向上に取り組んだ。

また、県の予算措置により、身体障がい者福祉センター体育館の「バスケットボールゴール」、障がい者更生センターの「温水ボイラー」及び視聴覚福祉センターの「外壁等の修繕工事」等、より安全に利用できる環境整備が行われた。

- 公益事業においては、就職や職場定着が困難な障がい者に対するきめ細やかな支援や就労促進に努めたほか、県内のパラアスリートの活動支援や鹿児島県で開催された全国障害者スポーツ大会に本県選手団を派遣するなど、パラスポーツを推進するとともに、芸術文化活動を行う障がい者の相談支援や支援人材の育成、作品発表の機会創出などに取り組んだ。

#### <その他>

- 職員の自発的活動を応援するため、職務上または職務外において、利用者サービスの向上、地域福祉への貢献、職員の親睦や連携に繋がる取組み等を行ったグループに対する理事長表彰制度を創設し、11グループを表彰した。
- 8月に開催された松山野球拳おどりに初めて「愛媛県社会福祉事業団“ほほえみ連”」として、利用者及び職員、総勢53名で参加した。職員有志が振付や装飾、練習方法等に創意工夫を凝らして、立派に演舞を行うことができ、利用者の楽しみ・社会参加の機会創出と施設間の連携強化に繋げることができた。

## 2 法人運営

### (1) 理事会の開催

#### 第1回（令和5年6月2日）

- 令和4年度事業報告並びに収支決算について
- 令和5年度収支補正予算について
- しげのぶ清愛園一部敷地の愛媛県への無償貸与に係る基本財産処分承認申請書及び土地使用貸借契約書の一部変更について
- 定時評議員会の招集について

#### 第2回（令和5年6月21日）

- 理事長及び常務理事の選定について
- 評議員選任等委員会委員の選任について  
（報告事項）
  - ・ 理事長及び常務理事の職務執行状況報告について

#### 第3回（令和5年7月7日）

- 評議員選任等委員会の招集について
- 評議員候補者の推薦について

#### 第4回（令和5年9月19日）

- 指定管理施設の指定申請について

#### 第5回（令和5年12月13日）

- 社会福祉法人愛媛県社会福祉事業団総合職職員給与等支給規程の一部改正について
- 社会福祉法人愛媛県社会福祉事業団特定職職員給与等支給規程の一部改正について

- 社会福祉法人愛媛県社会福祉事業団役員等報酬等支給規程の一部改正について
- 令和5年度収支補正予算について
- 評議員会の招集について  
(報告事項)
  - ・ 理事長及び常務理事の職務執行状況報告について

第6回(令和6年3月21日)

- 社会福祉法人愛媛県社会福祉事業団定款の一部変更について
- 社会福祉法人愛媛県社会福祉事業団定款施行細則の一部改正について
- 社会福祉法人愛媛県社会福祉事業団経理規程の一部改正について
- 社会福祉法人愛媛県社会福祉事業団役員等報酬等支給規程の一部改正について
- 令和5年度収支補正予算について
- 令和6年度事業計画並びに当初予算について
- 役員等賠償責任保険の契約内容について
- 施設長等の選任について
- 評議員選任等委員会委員の選任について
- 評議員会の招集について
- 評議員選任等委員会の招集について
- 評議員候補者の推薦について

(2) 評議員会の開催

第1回(令和5年6月21日)

- 令和4年度収支決算について
- しげのぶ清愛園一部敷地の愛媛県への無償貸与に係る基本財産処分承認申請書及び土地使用貸借契約書の一部変更について
- 役員を選任について  
(報告事項)
  - ・ 令和4年度事業報告について
  - ・ 令和5年度収支補正予算について

第2回(令和5年12月21日)

- 社会福祉法人愛媛県社会福祉事業団役員等報酬等支給規程の一部改正について
- 役員報酬総額について  
(報告事項)
  - ・ 令和5年度収支補正予算について

第3回(令和6年3月26日)

- 社会福祉法人愛媛県社会福祉事業団定款の一部変更について
- 社会福祉法人愛媛県社会福祉事業団役員等報酬等支給規程の一部改正について
- 理事の選任について  
(報告事項)
  - ・ 令和5年度収支補正予算について
  - ・ 令和6年度事業計画並びに当初予算について

(3) 監査

令和5年5月19日 監事監査

### 3 施設の経営

- 施設数 14 施設（直営施設 7 施設、指定管理施設等 7 施設）
- 職員数 総合職員 142 名 特定職職員 66 名 嘱託職員 14 名（6.3.31 現在）
- 施設の定員等

施設区分		サービス / 定員
直営施設	しげのぶ清流園	生活介護 55 名 施設入所支援 40 名 短期入所 5 名 放課後等デイサービス 5 名
	しげのぶ清愛園	生活介護 38 名 自立訓練 (休止) 就労移行支援 6 名 就労継続支援 (B型) 20 名 施設入所支援 40 名 短期入所 5 名 共同生活援助 18 名 障害児タイムケア 10 名
	道後ゆう	生活介護 35 名 自立訓練 15 名 就労移行支援 10 名 施設入所支援 40 名 就労定着支援 4 名
	ほほえみ工房ぱれっと道後	就労継続支援 (B型) 40 名
	どうご清友寮	共同生活援助 37 名
	福祉工房いだい清風園	生活介護 40 名 就労継続支援 (B型) 15 名 施設入所支援 50 名
	ほほえみ特定相談支援事業所	—
	指定管理施設等	愛媛県立愛媛母子生活支援センター 20 世帯
愛媛県身体障がい者福祉センター	—	
愛媛県障がい者更生センター (道後友輪荘)	(宿泊) 45 名	
愛媛県視聴覚福祉センター	—	
えひめ障がい者就業・生活支援センター	—	
愛媛県障がい者スポーツ協会事務局	—	
愛媛県障がい者アートサポートセンター	—	

#### 4 各施設の取組み（概要）

##### ○ しげのぶ清流園

- ・ 日中活動に、体操やストレッチを取り入れて、身体機能の維持向上を図るとともに、外部講師による文化活動や他事業所等との交流会を再開させるなど、日中活動の充実に努めた。
- ・ 老朽化したスチームコンベクションオーブン、消毒保管庫及び給湯器の入替えを行い、安定的な給食サービスの提供に努めた。
- ・ 放課後等デイサービス利用者送迎車両に車内置き去り防止安全装置を設置し、安全対策の強化に取り組んだ。

##### ○ しげのぶ清愛園

- ・ 職員同行によるレジャー及び買い物外出の外、買い物ができる環境が限定的な利用者も安心して楽しめるよう、業者による園内移動販売を定期的実施した。
- ・ 高齢化した利用者及び強度行動障害等の重度利用者の変化を多角的に捉え、より効果的で実践的な支援の充実に図るため、支援マニュアル及びガイドブックを見直した。
- ・ 就労継続支援B型事業においては、利用者の能力に応じた作業の提供等により就労意欲の向上を図りながら、農産物事業や軽作業等に取り組んだ。特に、除草や農作業では、機械の導入により作業の効率化を図った外、東温市役所や道後友輪荘での農産物販売、花の仕入れ・販売の工夫等により売り上げを伸ばし、利用者工賃の向上に繋がった。

##### ○ 道後ゆう

- ・ 機能訓練においては、身体機能の維持・向上を図ることで地域移行の推進に努めるとともに、個別支援の検討・充実に努めることで、運転免許の取得に繋がった。また、就労移行支援事業と連携し、社会生活力プログラムを実施し、他者との意見交換等を行いつつ金銭管理の方法や外出計画等を立てることで、社会適応力の向上を図った。
- ・ 就労移行支援事業については、ソーシャルスキルトレーニング等の習慣プログラムをベースとして訓練を行うとともに、事業所見学や就職セミナー等に積極的に参加することで、本人の希望に沿った就労に繋がった。また、各関係機関や機能訓練と連携し、通信制学校や市外の病院、特別支援学校等にも積極的にPR活動を行い利用者確保に努めた。

##### ○ ほほえみ工房ぱれっと道後

- ・ クリーニング科では、新規顧客(事業所)からの受注獲得により、大幅な収益向上が図られるとともに、近隣住民を対象とした利用促進キャンペーンでは、ふとん、カーペット等のクリーニングに取り組むことで、新規顧客の開拓に努めた。
- ・ 販売サービス科では、ほほえみフェスタ・視聴覚福祉センター文化祭での飲食品販売の他、県観光物産館での障がい者アートタオルの販売、県民文化会館や地域イベントへの出店による販路開拓に取り組み、施設の認知度向上を図るとともに、利用者と地域住民やお客様との交流を図った。また、他の障がい福祉事業所の商品の取扱いを増やし、顧客のニーズに応えるとともに、収益向上に取り組んだ。
- ・ 地域活動として、清掃活動やマイロードサポーター活動並びに道後地区もちつきや夏祭りに参加した外、スポーツ団体の協力によるスポーツ練習会等を開催した。

##### ○ どうぞ清友寮

- ・ 利用者個々の年齢や特性、希望する生活スタイルに応じた就労継続や余暇活動、健康管理などの相談・支援を提供し、利用者が地域で安心して暮らせるよう、日常生活の安定を図った。

- ・ 利用者の高齢化により、個別の状況に応じた健康管理の重要性が増していることから、松山市の特定健康診査や職場の健康診断等の受診を促し、受診結果に応じた支援を提供した。
  - ・ 全職員対象に、運転事故の発生原因および防止策を学ぶことを目的とした安全運転講習を実施し、職員の業務上の運転事故発生リスクの軽減を図った。
- 福祉工房いだい清風園
- ・ 食品部門においては、新たに果汁等の自動搾汁機を整備し、効率的なぶどう搾汁が可能となったが、その果汁を活用したスイーツの考案や果汁の販路確保にも取り組んだ。また、ぶどう以外の果汁の搾汁及び活用についても検討を行った。
  - ・ 木工部門においては、松山大学が実施する「ZooProject」とコラボし、とべ動物園が発売する木製カレンダーの製作を共同で行い、障がい福祉への理解促進及び利用者工賃の向上を図った。
  - ・ 生活介護事業においては、愛媛県立農業大学校及び伊台小学校と連携し、共同でサツマイモの作付け及び収穫体験を行う等、地域の関係機関との交流を図った。
- ほほえみ特定相談支援事業所
- ・ 障害福祉サービスの利用にあたり本人や家族の希望やニーズに沿ったサービス等利用計画を作成するとともに、定期的に事業所を訪問する等してモニタリングを実施した。
  - ・ 本人や家族の申し出に応じて実施する家庭訪問等のほか、行政や医療、関係機関等とも連携を強化し、サービスの質の向上に努めた。
  - ・ 法人内施設との密接な連携のもと、虐待防止研修で知的障がい者の特性や事例検討等を行い、事業団職員の専門職としての知識や技術の向上に繋げた。
- 愛媛県身体障がい者福祉センター
- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響で、3年間、中止や規模を縮小していた「ほほえみフェスタ」について、飲食の提供や開催時間等をコロナ禍前の開催形式としたことで、多くの地域住民との交流を図ることができた。
  - ・ コロナ禍でオンライン開催としていた法人内施設利用者を対象とした「ほほえみスポーツ大会」を、4年ぶりに参加者が一同に集うコロナ禍前の形式で開催するとともに、オンラインによる応援合戦を取り入れるなど、新たな取組みも加え、有意義な大会となった。
  - ・ 地域の防災力向上の取り組みとして、町内会や日赤愛媛県支部との連携による大規模災害を想定した防災講習会を実施し、机上訓練や起震車による地震体験を行うなど、地域全体の防災力の向上を図った。
- また、県により体育館バスケットボールゴールの引揚装置の交換工事が行われ、より安全に利用できる環境が整った。
- 愛媛県立愛媛母子生活支援センター
- ・ 幼児対象の行事として、保育園等が休園となる土日に入所児を預かる週末託児を実施。レクリエーション活動を通じて職員が関わる機会を増やし、関係性を深めるとともに、母親に休息の時間を提供した。
  - ・ 季節行事としては、BBQ・花火、ハロウィン、鏡開きなどを実施。季節の移り変わりを感じられる行事への参加を通じて、入所者と職員、また入所者同士の交流を図ることができた。各種行事には、平均7割以上の利用者の参加があった。
  - ・ 退所者のアフターケアについては、子育て相談をはじめ、役所や関係機関の手続きの際の同行支援等を継続して実施した。また、夏休みの外出や秋の日帰り旅行、クリスマス会などへの参加を呼びかけ、延べ37名の退所者の参加があった。

○ 愛媛県障がい者更生センター

- ・ 令和5年度は、全国ねりんピックの選手団受入れや開設40周年記念キャンペーンを実施し、ウイズコロナにおける営業に努めた結果、宿泊や飲食等の利用者数、収入額ともに増加する中、県の「愛顔の健康づくり応援店」に登録し、利用者に健康食を提供するとともに、松山市の「3010運動」に協賛し、食品ロスに取り組み等、サービス向上にも努め、積極的な運営を推進した。
- ・ また、老朽化した温水ボイラーの修繕や温水温度制御装置の設置工事を実施するなど、施設整備を図るとともに、安定した経営を目指して福祉関係団体機関紙へ広報掲載などを行い利用促進に取り組んだ。

○ 愛媛県視聴覚福祉センター

- ・ 各種事業においては、一部オンライン形式での開催もあったものの、ほぼ対面形式で実施し、利用者も増加し充実した内容での開催となった。またセンター文化祭については、今年度は飲食可とするなど通常開催に戻し、参加者も約800名を数え盛況であった。
- ・ 視覚障がい者の生活訓練(6カ月)は、希望者が無く一昨年度と同様に未実施となった。そこで視覚障がい者の実生活におけるニーズ等から事業内容を見直し、6年度より訓練希望者の地域において実状に応じたきめ細やかな訓練形態で実施することとした。
- ・ 設備面においては、愛媛県により外壁修繕工事が実施されたほか、非常用発電機修繕など防災管理に係る工事のほか、自動ドア修繕工事、EVピット内漏水修繕及びLED取替等の工事を実施した。

○ えひめ障がい者就業・生活支援センター

- ・ 就職や職場定着が困難な障がい者等に対し、多方面の様々な関係機関との連携の下、就業及びこれに伴う日常生活、社会生活上の支援を行った。
- ・ 圏域内の就労支援機関等に対するセミナーを開催し、障がい者雇用への制度改正やアセスメント力向上ツールの理解・促進を図った。

○ 愛媛県障がい者スポーツ協会事務局

- ・ 令和5年度は、新型コロナウイルス感染症が5類へ移行され、記録会や全国大会、講習事業等について、中止や規模の縮小なく適切に事業運営することができた。
- ・ パラアスリート支援では、パラアスリート支援補助金を活用している水泳競技の山口選手がパリ2024パラリンピックに内定、陸上競技の石山選手、藤原選手が同大会の出場権を懸けた世界選手権への出場が決まるなど、県内パラアスリートの活躍の一助を担うことができた。
- ・ 令和5年度中に活躍した障がい者スポーツ選手及び指導者等を対象に、愛媛県障がい者スポーツ協会会員団体より推薦のあった候補者を厳正に選考し、表彰を行った。

○ 愛媛県障がい者アートサポートセンター

- ・ 障がい者の自立や社会参加の促進を図るため、協賛企業の協力の下「障がい者アートデザインコンペ」を実施した。同コンペでは、障がい者とデザイナーがチームを組みアイデアを創出し、協賛企業に採択されたアイデアは、ブラッシュアップを行い、実際に商品化して販売された。
- ・ ぱれっと道後花楽里他におけるデザインコンペ成果物の委託販売へ向けての調整を行うなど、協賛企業との連携強化及び販路開拓を図った。
- ・ アートサポートセンターの活動を紹介するパネルを制作し、障がい者アート展や入賞作品の巡回展の際に掲示した。パネルには、アートサポートセンターのホームページやデザインコンペ成果物のECサイトのQRコードを掲載し、効果的な情報発信を行った。